令和3年度 菅田中ブロック学校評価 報告

（横浜市立 菅田の丘小学校・羽沢小学校・菅田中学校）

Ⅰ 令和3年度 菅田中ブロック学校評価の実施に当たって

菅田中ブロックでは、小中一貫教育ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組を、次のとおり設定しています。

小中一貫教育ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」
〈習得した知識を活用して課題解決できる子〉
〈互いに表現し合い、自分の考えを深める子〉
〈自ら行動し、粘り強く取り組む子〉
具体的取組
○小中の連携を深め、授業参観を通して互いに授業力の向上を目指す。
○小中職員が一同に会する合同研修会の設定。
○「9 年間で育てる子ども像」を見据えた教育課程の編成。

文部科学省の「学校評価ガイドライン」では、学校評価の目的として、「各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること」を挙げています。そこで、小中一貫教育推進ブロックの目指す目標としての「9年間で育てる子ども像」の達成状況を評価するため、「9年間で育てる子ども像」から3校共通の質問項目を設定するとともに、昨年度までのブロック学校評価から見えてきた課題を加え、児童生徒・保護者・教職員共通の質問項目として、次の6項目を設定しました。

(1) あなた（お子さん・児童／生徒）は、学習したことを生かしながら、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいる。
(2) あなた（お子さん・児童／生徒）は、自分の意見や考えを言葉で表現している。
(3) あなた（お子さん・児童／生徒）は、他の人との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。
(4) あなた（お子さん・児童／生徒）は、始めたことは、何でも最後までやり遂げようと頑張っている。
(5) あなた（お子さん・児童／生徒）は、自分にはよいところがあると思っている。
(6) あなた（お子さん・児童／生徒）は、自分の考えを積極的に表現して伝え、他者と関わり合いながら高め合っている。

これらの質問項目の設定の意図は次のとおりです。

○小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」から
- 習得した知識を活用して課題解決できる子――――ブロック学校評価の質問項目(1)
- 互いに表現し合い、――――――――――――ブロック学校評価の質問項目(2)
- 自分の考えを深める子――――――――――――ブロック学校評価の質問項目(3)
- 自ら行動し、粘り強く取り組む子――――――――ブロック学校評価の質問項目(4)

○昨年度までの学校評価で見えてきた課題から
・ 自己肯定感――――――――――――――――――――ブロック学校評価の質問項目(5)
・ コミュニケーション力――――――――――――――――ブロック学校評価の質問項目(6)

Ⅱ 令和3年度 菅田中ブロック学校評価の結果と考察

Ⅰ 実施時期・方法・対象等

今年度のブロック学校評価は、ブロック内の3校において、令和3年 11 月にロイロノート(小学校)・Google フォーム(中学校)を用いてオンラインで実施しました。

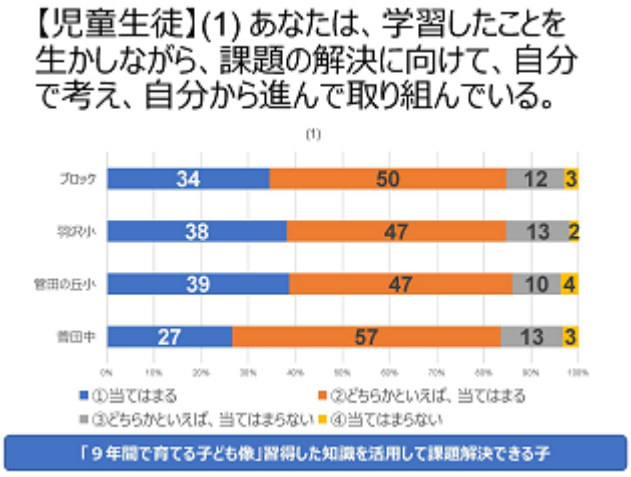
n	児童・生徒	保護者	教職員
ブロック合計	1349	800	87
羽沢小学校	445	229	27
菅田の丘小学校	509	296	31
菅田中学校	395	275	29

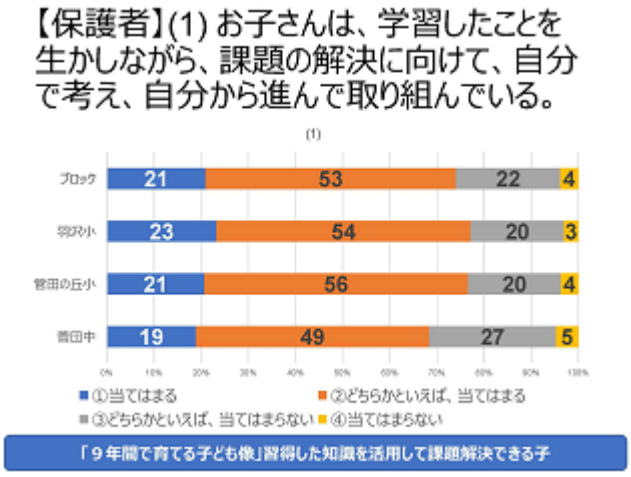
実施後は直ちに集計を行い、第3回みどりの大地協議会(令和3月12月6日・菅田の丘小学校)において、「『児童生徒』『保護者』『教職員』の結果の差が大きい項目」、「肯定的な回答が少ない項目」、「回答の傾向に顕著な傾向が見られる項目」などについて考察し、中間報告を行いました。そこでいただいたご意見も踏まえて、6つの設問項目について結果を検討し、次の「2 各質問項目の結果と考察」に考察と今後の取組の方向性についてまとめました。

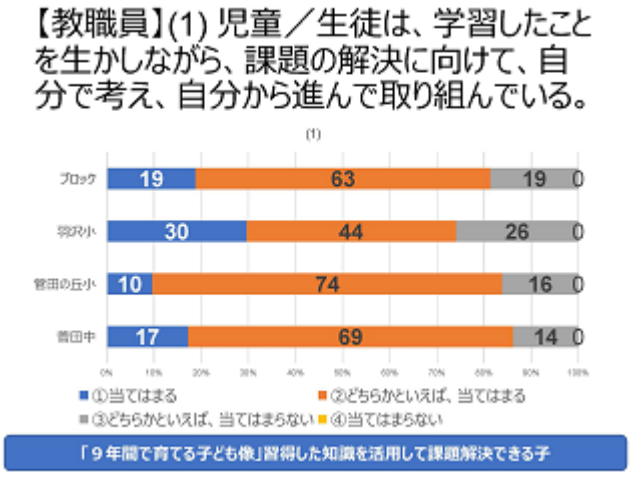
(「2 各質問項目の結果と考察」では、考察については下線＿＿＿、今後の取組の方向性については下線〰〰〰で示しています。)

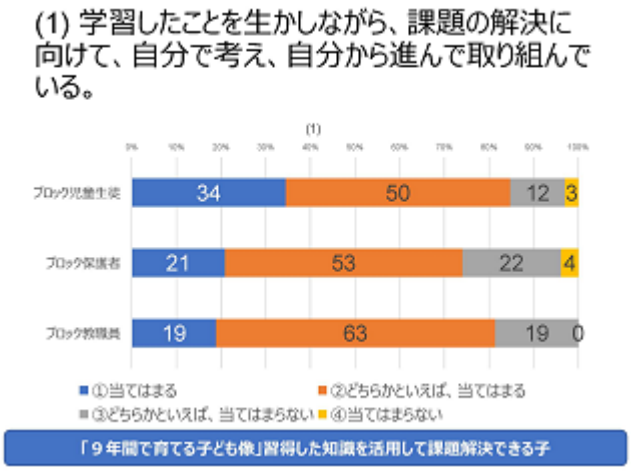
2 各質問項目の結果と考察

(1) あなた(お子さん・児童／生徒)は、学習したことを生かしながら、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいる。



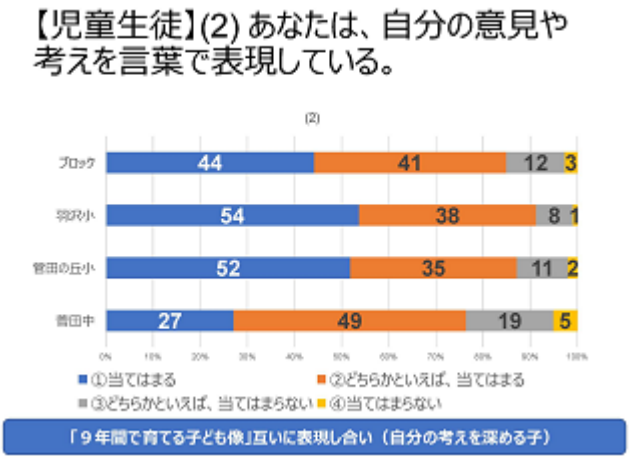


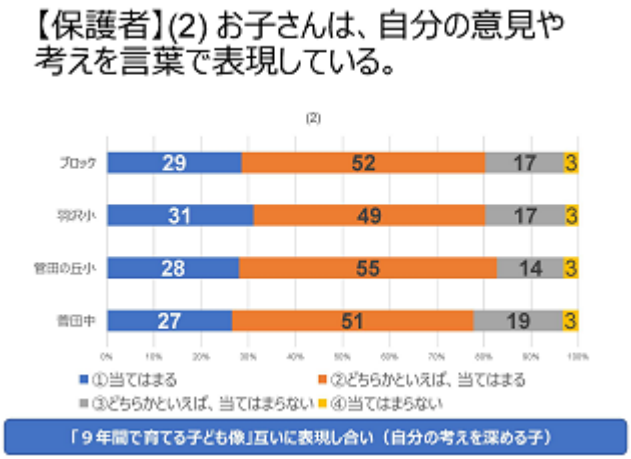


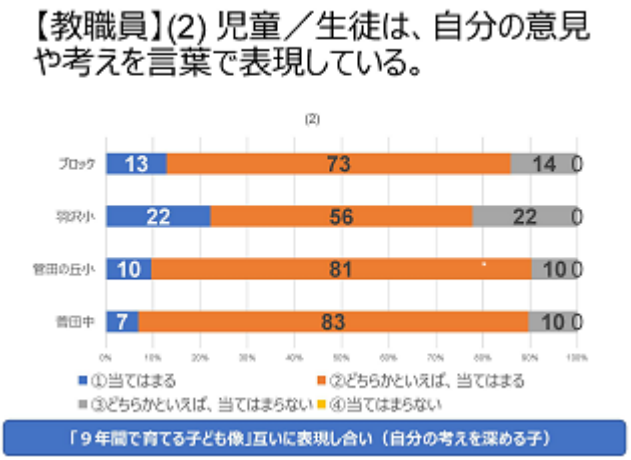


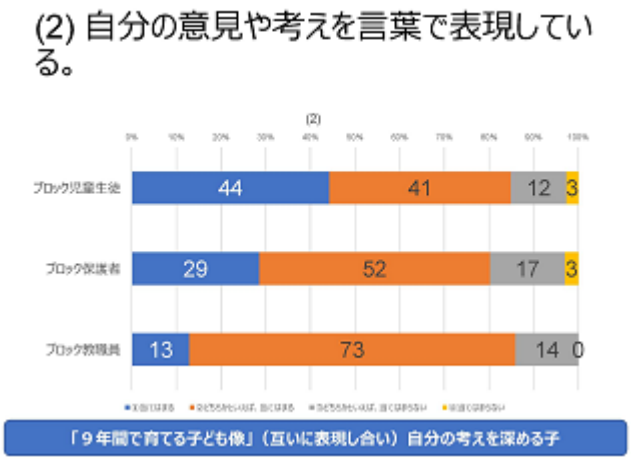
「児童(小学生)」の 85%、「生徒(中学生)」の 84%、「教職員」の 82%が「当てはまる」「やや当てはまる」であるのに対して「保護者」の肯定的回答は74%にとどまっています。これは、小学校では昨年度から、中学校では今年度からの学習指導要領の全面実施に当たり、各学校では「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善に取り組んでおり、児童生徒も意欲的に学習に取り組んでいますが、コロナ禍で学校に集まっていただく機会が少ないこともあり、それらについての保護者への説明が十分に行われておらず、保護者の理解が進んでいないのではないかと考えられます。今後、保護者会や説明会の等のあり方を工夫し、学校としての説明責任をよりいっそう果たしていくことが求められていると考えます。

(2) あなた（お子さん・児童／生徒）は、自分の意見や考えを言葉で表現している。



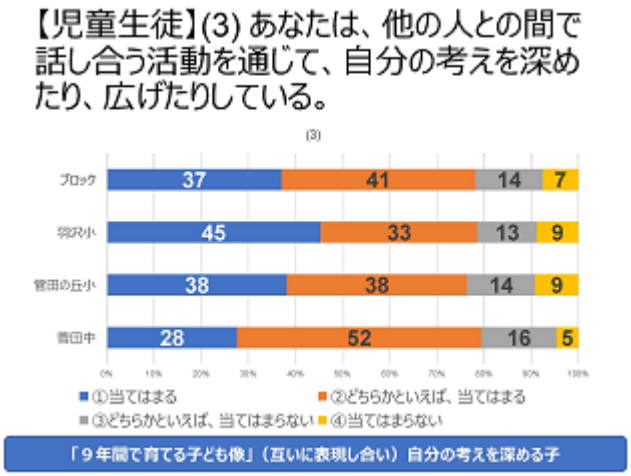


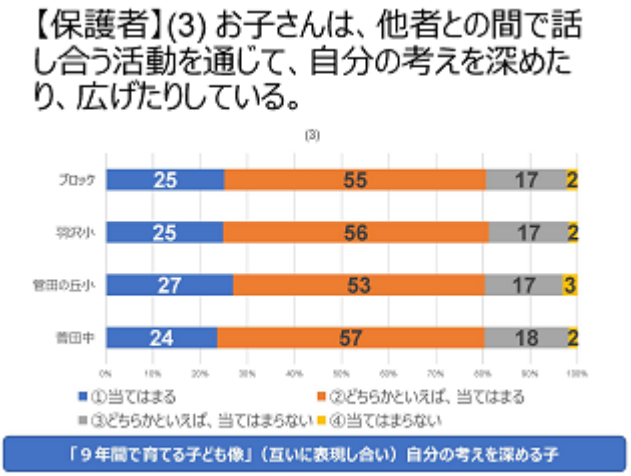


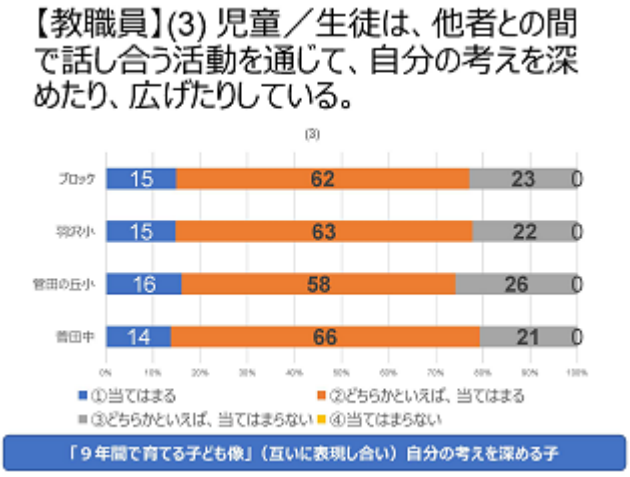


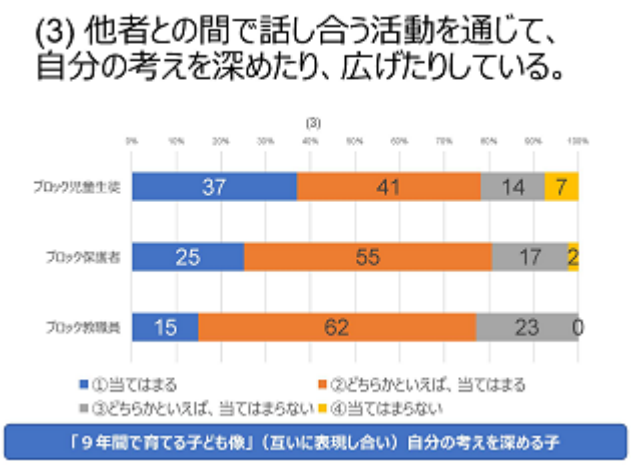
「当てはまる」「やや当てはまる」の回答が「児童（小学生）」が90％であるのに対し「生徒（中学生）」が76％であり、中学生になると下がっています。このことの理由としては、一つは中学生になると思春期を迎えて、言葉で自分を表現することに対する抵抗感があることが考えられます。また、中学校の授業では各教科等における言語活動の場面で自分の思いや意見を言葉で表現する機会が、小学校と比較すると少ないことも理由の一つと考えられます。新学習指導要領では、育成する資質・能力について「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理されており、「各教科等における言語活動の充実」は、引き続き重視されています。「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善の中で、取り組んでいきたいと考えています。

(3) あなた（お子さん・児童／生徒）は、他の人との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。





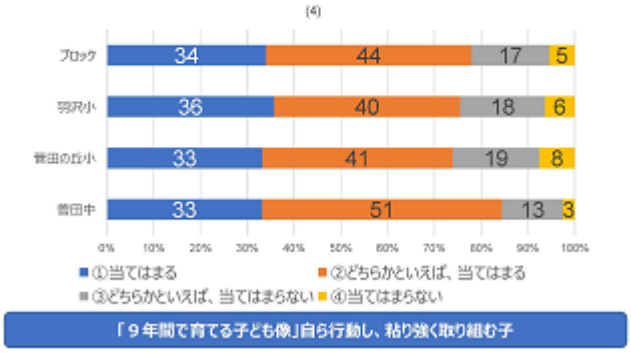




3校すべて、そして「児童生徒」「保護者」「教職員」のいずれにおいても「当てはまる」「やや当てはまる」がほぼ 80%以上となっています。このことは、新しい学習指導要領のもとで、教科のみならず特別活動や総合的な学習の時間において、双方向（インタラクティブ）のコミュニケーションの中で学習を進めていることの成果であると考えられます。前述(2)の「自分の意見や考えを言葉で表現」する機会をしっかり保障することにより、さらなる向上が期待できると考えられます。

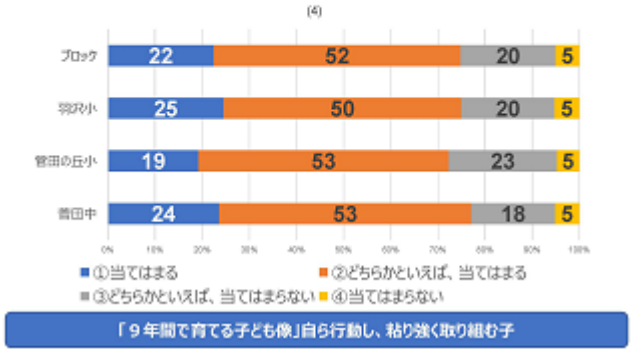
(4) あなた（お子さん・児童／生徒）は、始めたことは、何でも最後までやり遂げようと頑張っている。

【児童生徒】(4) あなたは、始めたことは、何でも最後までやり遂げようと頑張っている。



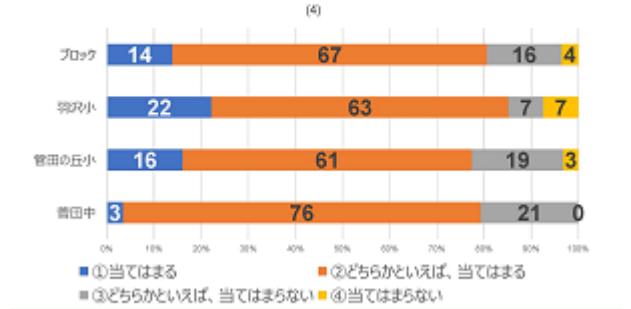
「９年間で育てる子ども像」自ら行動し、粘り強く取り組む子

【保護者】(4) お子さんは、始めたことは、何でも最後までやり遂げようと努力している。



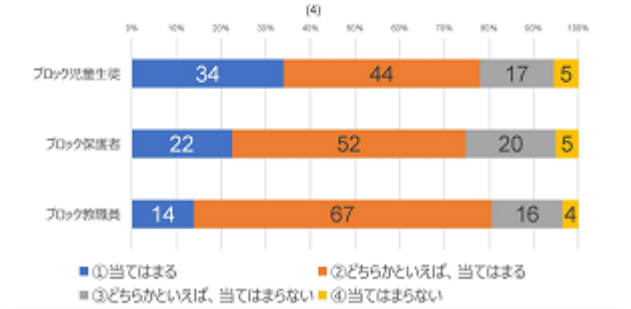
「９年間で育てる子ども像」自ら行動し、粘り強く取り組む子

【教職員】(4) 児童／生徒は、始めたことは、何でも最後までやり遂げようと努力している。



「９年間で育てる子ども像」自ら行動し、粘り強く取り組む子

(4) 始めたことは、何でも最後までやり遂げようと努力している。

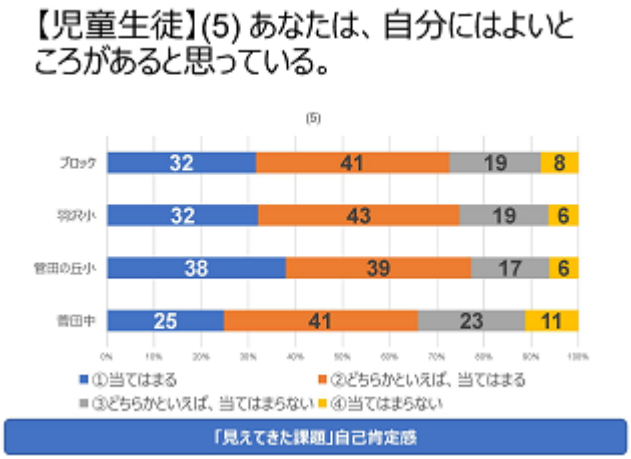


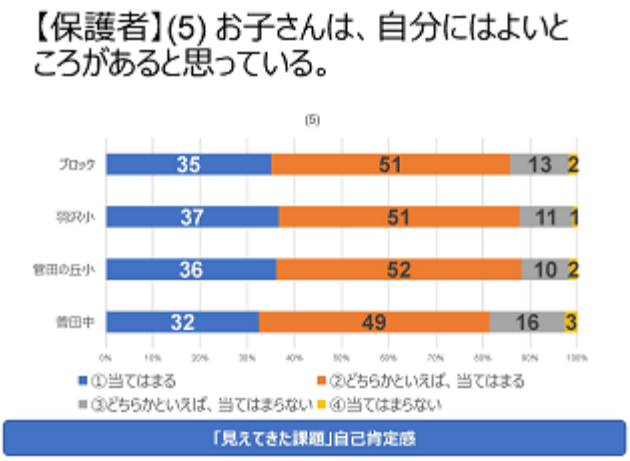
「９年間で育てる子ども像」自ら行動し、粘り強く取り組む子

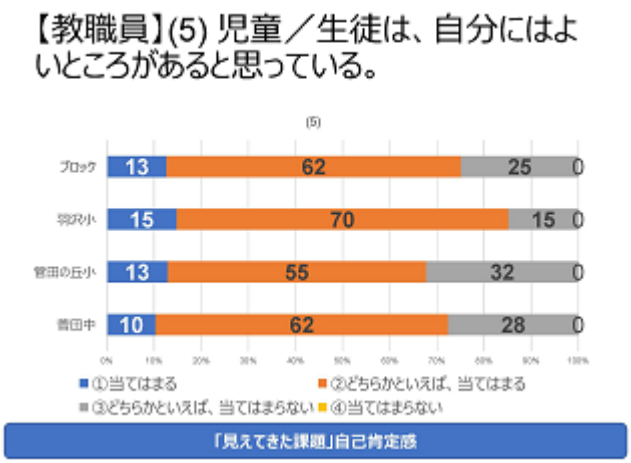
「当てはまる」「やや当てはまる」の回答が「児童（小学生）」（2校の平均）では75％であり、「生徒（中学生）」では84％に伸びています。この理由としては、中学校では部活動に参加している生徒が多く、自分自身が「最後までより遂げようと努力している」と感じられる場面が多いこと、また、発達の段階によって行動範囲が広がり、「最後までより遂げようと努力」する場面が増加していることが考えられます。

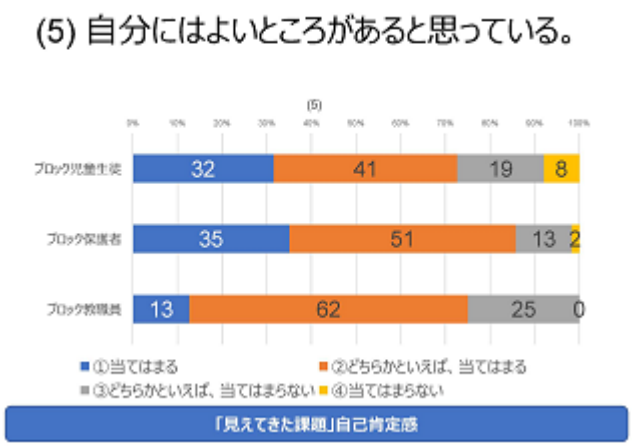
今後、 小中9年間を見通したカリキュラム・マネジメントをいっそう推進する中で、小中ともに、「最後までより遂げようと努力」する場面を大切にしていきます。

(5) あなた（お子さん・児童／生徒）は、自分にはよいところがあると思っている。







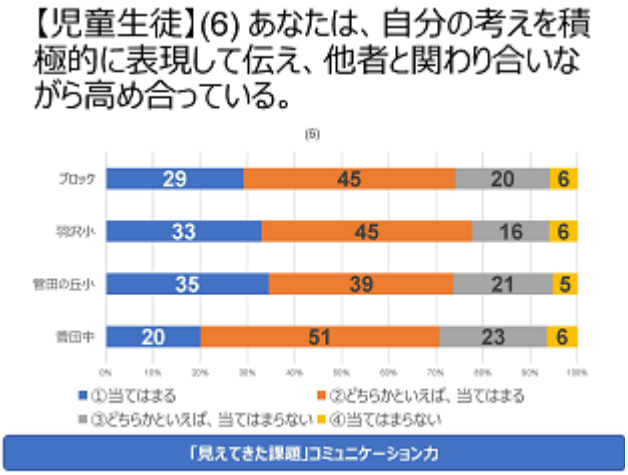


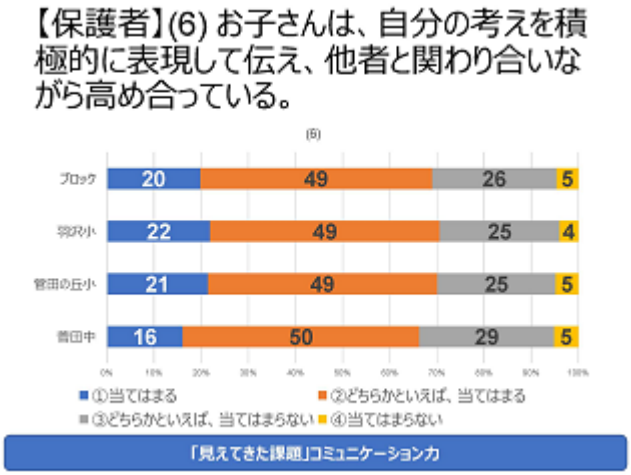
この項目は昨年度と同じ設問であり、これまでの菅田中ブロックの学校評価で課題と考えられていたものです。昨年度との比較において、「当てはまる」「やや当てはまる」の回答が、「児童（小学生）」は 78→76%、中学生は 51→66%、保護者は 79→86%、教職員は 96→75%となっています。「児童（小学生）」は昨年とほぼ同じ、「生徒（中学生）」及び「保護者」は肯定的回答が増加していますが、「教職員」の肯定的回答が減少しています。

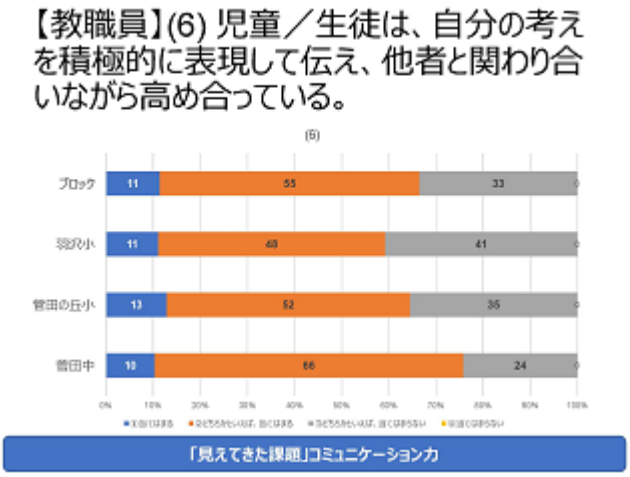
これらのことの理由としては、各学校における取組の中で、児童生徒や保護者が子どもの「よさ」を自覚する、あるいは「よさ」に気付く場面が多くある一方で、菅田中学校ブロックの教職員が児童生徒の成長を願い、理想を高く持っていることが考えられます。子どもたち一人ひとりの「よさ」を教職員がしっかり見取り、日々の指導や支援に生かすとともに児童生徒や保護者に対して、適切にフィードバックを行っているための方策を保護者や地域の方とともに考え、今後の学校教育活動に生かしていきたいと考えます。

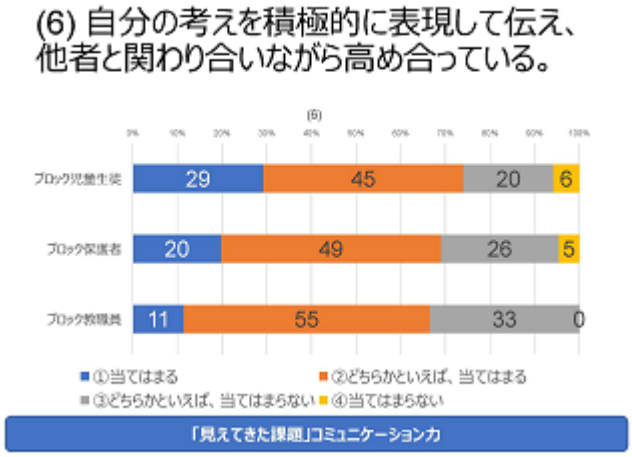
この項目については、第3回「みどりの大地協議会」における中間報告の際に、「保護者が肯定的回答の割合が高い。子どもの本当の姿を共有することが大切。そのためにも保護者が子どもの姿を見られる機会を増やせるとよい。」とのご意見をいただきました。感染症対策等に配慮しながら、そのような機会の充実を図っていきます。

(6) あなた（お子さん・児童／生徒）は、自分の考えを積極的に表現して伝え、他者と関わり合いながら高め合っている。









この質問項目は「コミュニケーション力」についてのものです。「コミュニケーション力」もこれまでの菅田中学校ブロックの学校評価で課題と考えられてきている内容ですが、昨年までの「友達と話し合ったり、自分の考えを伝えたりして学習していますか？」という設問から、「学習だけでなく生活全般」そして「関わり合いながら高め合っている」という視点を加えて質問項目としました。結果は、他の設問と比較しても、「教職員」の「当てはまる」「やや当てはまる」の回答が 66%と低くなっています。

この質問項目と関連する内容である。ブロックの教育目標についての設問(3)「他者との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」では、教職員の肯定的回答は 77%となっています。「考えを広げたり、深めたり」することから「関わり合いながら高め合って」いくことへ向かうことを目指して、各教科の授業や学級活動、学校行事等、学校教育活動のあらゆる場面を通じて取り組んでいきたいと考えます。

3 まとめと次年度に向けて

小学校では昨年度から、中学校では今年度から全面実施となった平成 29 年告示学習指導要領では、「生徒や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと，教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと，教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して，教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努める」ことについて示しています。菅田中ブロックでは、ブロック学校評価を「教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていく」機会ととらえ、併設型小・中学校におけるカリキュラム・マネジメントの PDCA サイクル*を円滑に廻すための学校評価という視点をより明らかにし、3校における新しい教育課程に基づく教育活動に資することをねらいとしてブロック学校評価のあり方を見直しました。そのことが、第4期横浜市教育振興基本計画に向けての次の中期学校経営方針で取り組んでいくべき課題を明らかにする機会となった一方、菅田中ブロックの子どもたちの「よさ」や成長の姿を保護者・地域・教職員が改めて確認する機会ともなったと感じています。

また、学校評価の集計や考察を通して、3校の保護者の皆様からの学校に対するあたたかな視点と期待とを感じることができました。菅田中ブロックの学校運営協議会「みどりの大地協議会」を始め、さまざまな場面で3校の保護者や地域の皆様に今回の結果を発信し、いただいたフィードバックを3校で共有しながら、「独自教科」の開設等併設型小・中学校における取組を通して、菅田中ブロック及び各学校のカリキュラム・マネジメントの充実を図っていきます。

（菅田中学校 副校長 三藤 敏樹）

*「PDCAサイクル」

カリキュラム・マネジメントとして重要なのは、PDCA サイクルである。PDCA サイクルは、本来、企業等での生産管理や品質管理などの管理業務を継続的に行い、それを改善するために行われる手法である。

PDCA サイクルの原形となる考えを唱えたのは、ジュール・アンリ・ファヨール（フランス）で、管理活動を重要視し「管理とは、計画し、組織し、指揮し、調整し、統制するプロセスである」とした。そのことから、PDCAサイクルでは、以下のようなサイクルで、検証を行っている。

① Plan（計画）：計画を作成する。
② Do（実施・実行）：計画に沿って実施・実行する。
③ Check（点検・評価）：計画に沿って実施・実行されているかどうかを確認する。
④ Act（処置・改善）：実施が計画に沿って実行されていないことを調べて処置する。

髙木展郎（横浜国立大学名誉教授）
『評価が変わる 授業を変える 資質・能力を育てるカリキュラム・マネジメントとアセスメントとしての評価』
（2019 年 三省堂）p.107